

第81回（令和7年7月）文章入力スピード認定試験（日本語）問題

わたしたちは家の中でくつろぐとき以外は、足に何かを身に着けて過ごすことがほとんどです。欧米においては玄関で靴を脱ぐ習慣が一般的ではないため、その時間がわたしたちよりも長いことは簡単に想像できるでしょう。その日の天候や出掛ける目的などによって、身に着けるものは変わりますが、はだしで出掛けることはまずありません。その最大の理由は、危険だからです。仮に学校へ向かう際に、何も履かずに駅までの道を歩いたとしましょう。そこには小さなガラスや金属、木片などが落ちていて、細心の注意を払っても、うっかり踏んでしまうことがあるでしょう。やっとの思いで駅に着いたかと思えば、乗り込んだ電車が混んでおり、他人に足の先を踏まれて、あまりの痛さに悲鳴を上げてしまうかもしれません。このように、地面には危険がいっぱいで、履物なしには一步も進めないと言っても過言ではないでしょう。さらに冬であれば教室で授業を受けていると床からの冷気により、冷え切って集中することができないかもしれません。そして衛生面においても重要な役割を担います。はだしで出歩いた場合、疲れ切って帰宅してもそのまま玄関から先に入るわけにはいきません。なぜなら、真っ黒に汚れた足を洗わなければ、家の中に汚れを持ち込むことになってしまうからです。言わずもがな、靴はわたしたちにとって必需品なのです。

ところで、わたしたちが身に着けているのと同じような形のものは、いつごろからあるのでしょうか。古いものではイラン国境付近の洞窟で牛革が使用されたものが見つかります。これは、ひもで調節することで足に沿うよう作られていました。その後の検証では、紀元前3500年ごろのものだと判明したそうです。また日本において洋式のものが出回るようになったのは、江戸時代末期から明治時代の初期のころだといえます。さらに国内でその製造が始まったのは、1870年のことで、東京の築地にある工場で作られました。

さて、世代や性別を問わず愛用されているのがスニーカーですが、これは運動のときに動きやすいように機能性を重視して作られたものです。そのため、軽い素材が使われることが多く、いかに疲れにくく丈夫な構造になっているかということが重要なポイントとなります。ところが、さまざまな形のものが開発されていく中で、デザイン性の高いものも数多く誕生するようになります。現代ではスポーツ用品という枠を超えた、ファッションアイテムとしても広く親しまれています。コレクターも存在し、希少なものは非常に高い値段で取引されるといいます。さらに近年では、環境問題に配慮しエコな素材を使用したスニーカーも登場しているようです。リサイクル素材を使ったり生産過程での二酸化炭素排出を抑えたりといった、地球に優しい取り組みが進んでいます。他にもカロリー消費や歩数を記録する機能を持つなど、履物の未来を感じさせる技術が取り入れられています。これらの進化により、靴はこれから多くの人々にとって欠かせない存在であり続けるでしょう。

通勤のため最寄り駅まで歩いて行く途中に、それほど大きくはないけれど、よく手入れされた庭が見事な家を見掛けます。その横を通るたび、季節ごとに鮮やかに咲いた草花の

姿が目に入り、楽しませてもらっています。ある日、脚立やはさみをはじめとするさまざま	1, 379
な道具を持った職人たちが、枝切りをしている場面に出くわしました。伸びた部分のうち、	1, 419
どのような基準ではさみを入れる箇所を決めているのか、わたしにはさっぱり見当が	1, 459
付きませんでした。翌日そこを通ったときには、ある部分は全体的に丸みを帯びた形にな	1, 499
り、その隣はほっそりとしたスマートな姿へと整えられていました。さすがプロだと思っ	1, 539
て見ていると、あちこちにさまざまな形や大きさの石や灯籠が置かれ、傍らにはコケまで	1, 579
植えられ、めりはりのあるすっきりとした空間が広がっていました。	1, 611
さて、いわゆる日本式庭園が造られたのは、飛鳥時代からだといわれています。仏教が	1, 651
正式に渡来したのと同じころに奈良県に伝わり、やがて京の都で大きく花開き、大陸の多	1, 691
様な文化や思想を少しずつ取り入れながら発展していきました。また、わが国には昔から	1, 731
自然界のあらゆるものに神様が宿するという信仰があり、これが日本庭園を造る際のベース	1, 771
となっています。土や石、植物や水を使い、美しい自然の景観を再現するというのが基本	1, 811
的な考え方ですが、それには幾つかの主な様式があります。まず、池を中心としたタイプ	1, 851
が挙げられます。宮廷や貴族の邸宅などによく見られ、時には船を浮かべて楽しんでい	1, 891
そうです。また本物の自然と重ね合わせて、まるで一つの絵画のようにして眺めるために	1, 931
その場所を決めるケースもあります。この技法は借景と呼ばれ、より景色の広がりを感じ	1, 971
させる手法です。次に、水を使わず石や砂で表現した「枯れ山水」です。これは主体とす	2, 011
るものに、美しくて色の良いものを選ぶことが重要だそうです。宇宙を表すこの様式は精	2, 051
神を落ち着かせ、修行の場としてもふさわしかったことから、日本に禅宗の教えが根付く	2, 091
と共に発展したそうです。また応仁の乱の後に、権力者たちの懐が厳しくなっていくた	2, 131
という事情や、水も広い土地も必要としないことが広まった要因だといわれています。そし	2, 171
て最後は、茶の湯のもてなしの一つとして発案された「露地」です。これは、茶室に入る	2, 211
前に精神を落ち着かせ、自然との一体感を味わうために設けられた空間で、ここを通過	2, 251
茶室に向かう過程も茶道の一部とされたのです。	2, 274
江戸時代になると、庶民の間でも庭が取り入れられるようになりました。そのきっかけ	2, 314
となったのが「坪庭」だといわれています。これは周囲を壁や塀などで囲われた、屋内に	2, 354
ある小さな庭のような空間です。もともとは、平安貴族たちが建物の渡り廊下のような部	2, 394
分に花や樹木を植えたことが始まりとされ、その後の長屋が多く立ち並んだ時代には少し	2, 434
形を変えて引き継がれてきました。この建物は間口に対して奥行きが大きいという特徴か	2, 474
ら、奥の方には光が入りにくいうえに風通しも良くありませんでした。その改善策として	2, 514
建物の中央に花や竹などの植物、石などを用いた空間を作ることにより、空気の入れ替え	2, 554
と採光が可能となったのです。限られたスペースを最大限に生かしながら開放感を味わう	2, 594
ことができる、洗練された表現が特徴です。現代でも住宅や旅館などでも多く取り入れら	2, 634
れ、自然を身近に感じられる空間として親しまれています。	2, 661